

---

## はじめに

---

本書を手にとっていただき、ありがとうございます。

みなさんは初めての6年生の担任ですか？ それとも2回目の担任ですか？ それともそれ以上でしょうか。

私は教職2年目で6年生の担任をしました。ちょうど干支が一回り違う子たちでした。子供にとっては歳の近いお兄ちゃんみたいな存在の先生でした。子供たちは私のことを先生と言わずに「まんちゃん」と呼んでいました。

先日、ある研究会の座談会に登壇をしていました。そこで、「これまでの教師生活でうれしかったことは何ですか？」という質問がありました。私は、次のような返答をしました。

経験年数が浅い頃は、子供たちのすぐの反応がうれしかったです。こちらが頑張った分だけよい反応が返ってきたり、工夫したことに対して子供の笑顔をみたりすることがうれしかったです。

でも、2年目で初めて子供たちを送り出し、その子たちが大人になったときに一緒にお酒を飲みについて様々な話ができることがそれ以上にうれしかったことです。卒業して終わりではなく、その続きが何年後にあったのはとてもうれしかったです。

そういえば、この子たちは15歳のとき、同窓会をしたいと他校に転勤した私のところに話をしに来てくれました。卒業後も付き合いが生まれるような学級経営をなさないと提案したいわけではありません。言いたいことは、6年生との付き合いは子供というより「人」との関係という感覚があるということです。やはり、他の学年に比べて、特別の学年と言えます。

6年生の担任はやはり他の学年に比べて、担任の先生のことを子供たちは覚えています。5年間の先生のバトンを受け取り、子供たちにとって最後の1年間を過ごすのです。最高学年としてみんなのお手本なる存在、学校のリーダー、様々なことを引っ張っていく存在というイメージが6年生にはあたりします。

そんな6年生担任をすることにプレッシャーをもたれる方もいることでしょう。だからこそ、年間の見通しをしっかりとつことで先を見通すことができます。先を見通し、行事をしっかりとねらいをもち取り組むことで、子供たちは成長していくことでしょう。そして、先生自身も成長していくことでしょう。子供と先生の成長のために、本書が一助になれば、幸いです。

さあ、6年生の担任を始めていきましょう。

令和5年2月  
編集代表 樋口万太郎

# 本書活用のポイント

本書では、4月から3月まで毎月どのような学級経営を行っていけばよいか、各月の目標・注意事項を解説しています。また、学級経営の具体的なアイデアを、イラストをもとに、どのクラスでも運用できるような形で紹介しています。ぜひ、ご自身のクラスでも実践してみてください。



1年間を見通した学級経営を!

## 本書の見方

月初め概論ページ

### 4月 子供と保護者との関係を意図的に仕組んでいこう!

**4月は形成期**

各月の概論ページには、心理学者のブルース・W・タックマンが1965年に提唱した組織の成長の段階を示したモデルであるタックマンモデルを使い、各月がこの成長段階に当てはまるのかを提示しています。

なお、各月がどの段階にあたるかは一般的に考え、配置をしています。そのため、学級によっては違いが生じることは想定しておいてください。また、明確には〇〇期だということも示しづらいためです。どんな学級でも、4月のスタートから達成期の学級はありません。どの学級も平等に形成期からのスタートです。

形成期 (メンバーを形成)	混乱期 (考え、感情がぶつかり合う)	規範期 (共通の目標、役割分担が形成され始める)	達成期 (学級として機能し、成果を出す)
<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いのことをよく知らない</li> <li>学級の共通の目標が明確には定まっていない</li> <li>子供たちの特徴や思い、考えなどが分かっていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供たちの特徴や思い、考えに違いが感じられ、人間関係などで対立が起きる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級の子供たちの特徴や思い、考えなどが共有され始める</li> <li>統一感が生まれつつある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級に結束力が生まれ、相互にサポートができるようになる</li> <li>学級としてパフォーマンスを最も発揮する時期</li> </ul>
4・5月	6・7・(8)・9・10・11・12月		1・2・3月

入学式を成功させるために、子供たち同士でできることを考えていく必要があります。つまりは、横の関係づくりに適しています。係・当番活動の指導も横の関係づくりに適していることでもあります。そして、その行事や出来事が成功するように指導していくだけでなく、なかなか成果としては表れづらいかもしれませんが、こういった関係を少しずつ作っているといったことを意識しておくだけで、指導も変わってくるでしょう。

関係を作るには時間がかかるものです。あきらめずに取り組んでいきましょう。

**意図的に仕組んでいこう**

さあ、新しい学級のスタートです。4月は形成期なのは、みなさん納得することでしょう。新しい先生、新しい子供たちです。お互いのことをより知っていき、関係を作っていくことが大切です。このときの関係は、先生と子供たちの縦の関係だけではありません。子供と子供の横の関係を作っていくことが大切です。特に、コロナの影響もあり、以前に比べると、子供と子供の横の関係が薄くなっているようにも感じます。

もちろん、保護者との関係を築き上げていくことも大切です。ただ、まずは保護者というよりも先生と子供の関係づくりからスタートしていきましょう。その縦の関係が築かれ始めると、きっとお家で先生の話や学校の話になるでしょう。勝手に縦の関係が作られていくわけではありません。こちらの方が、**意図的に仕組んでいく**ことが求められます。そこで、4月のページで紹介されている行事や出来事を通して、縦の関係、横の関係を作っていきます。

## 学級経営アイデア紹介ページ

### 4月 係・当番

**当番や係活動の例**

当番 (あると暮らしがスムーズになるもの)  
目録・給食・清掃・風邪・窓・電気・整頓  
配膳台・保健・教科連絡・掃除・配布等

係活動 (あると暮らしがより豊かになるもの)  
お祝い・お笑い・ほめほめ・スポーツ・古いレク・キレイ・ギネス・飾りつけ・思い出話・くじ引き・天気予報・新聞・ニュース生き物・図書・音楽・ダンス・折り紙・応援ボランティア・タブレット・アーティスト・かんぱい・クイズ・調べ等

**ねらい**

「学級」という小さな集団を、自分たちの力で楽しく充実した大切な居場所にする経験を通して、最高学年として「学校」という大きな集団を動かす意識とスキルを身に付けます。

**指導のポイント**

当番や係活動は、多くの学校で1年生から行っているため、6年生は経験を伴ったイメージがもてるようになってきています。そのため、教師主導ではなく、子供たち自身の知識と経験を生かし、活動していくことが望ましいです。学級会等の導入も併せて行い、子供たちが主体的に話し合い、決定すると効果的です。子供たちの個性が生かされるよう助言や見守りをして、活動をサポートしましょう。

**展開**

**01 経験をもとに意見を出し合う**

クラス替えがある場合、前年度の各クラスによってシチュエーションが異なります。教師側でアイデアはあっても、子供たちから情報を聞き、主体的な意見を尊重します。子供たちの活躍や個性が光りやすいものは引き継ぎ取り入れましょう。

**02 当番活動の実施と見直し**

「当番」は学級にあると、暮らしがスムーズになるものを設定します。担当は一人一役や少人数に。個々が責任を持って取り組むようにします。クラス運営活動し、仕事量や人数など課題が見えてきたら、その程度話し合いを設け、修正を提案しましょう。

**03 係活動の実施と見直し**

「係活動(会社活動)」は、人数や性別にこだわらず、子供たちの希望を優先し、活動できるようにします。係活動での自由な企画、運営が自由となり、学級での活動につながるということが期待できます。適宜、活動内容の見直しも行いましょう。

**04 つながる環境づくり**

係活動の情報スペースを確保し、盛り上げを後押ししましょう。また、係同士のコラボを促したり、行事・係活動での自由な企画、運営が自由となり、学級での活動につながることを期待できます。適宜、活動内容の見直しも行いましょう。

**1 目標・注意事項**

その月の学級経営での目標、考え方、注意事項を紹介しています。月ごとに何をやるべきなのかを学年で共有する際、このページが参考になります。1年間というスパンで子供・クラスの成長を捉える中で、月ごとにPDCAを回していきます。

**2 月のねらいに合わせた実践例**

ここでは、その月のねらいを達成するための実践例を紹介しています。教師の言葉かけから、取り組みなど幅広い内容となっています。自身の学級経営にマンネリを感じてきたら、是非、ここでのアイデアを実践してみてください。

**3 活動の流れ**

紹介する活動について、そのねらいや流れ、指導上の留意点をイラストとともに記しています。また、重要な行事については、一人の先生の一例ではなく、複数の先生がそれぞれ提案することで参考にしやすくなっています。

**4 中心となる活動・場面など**

紹介する活動において、中心となる活動や場面、教材、板書例などに焦点を当て、活動の大切なポイントを解説しています。その後のゴールのイメージをもつ際に役立ちます。学級経営では、子供の発言を受け止める、つぐやきを大切に、温かな言葉かけが大切です。

# 1 第6学年における 学級経営の ポイント

はじめに ……1  
本書の見方 ……2

6年生の担任になったら ……8  
ゴールイメージをもとう ……10  
学級経営を充実させるための指導 ……12  
6年生とは、心と身体が変化していく大事な時期 ……14  
6年生は行事で育てていこう ……16  
第1章の参考・引用文献 6年生担任に役立つ本 ……18

# 2 第6学年の 学級経営

## 4月 子供と保護者との関係を 意図的に仕組んでいこう！ ……20

入学式 ……22  
学級開き① ……24  
学級開き② ……26  
学級目標① ……28  
学級目標② ……30  
1年生を迎える会 ……32  
挨拶指導 ……34  
係・当番 ……36  
委員会・クラブ ……38  
縦割り班活動 ……40  
給食 ……42  
参観授業 ……44  
家庭訪問 ……46  
個人面談 ……48

## 5月 連休明けはボチボチスタートでOK！ ……50

運動会① ……52  
運動会② ……54  
席替え ……56  
学級会① ……58  
6月危機に向けて ……60

## 6月 混乱期だからこそ原点回帰を！ ……62

登下校の指導 ……64  
プール清掃 ……66  
修学旅行① ……68  
6年生ミッション① ……70

## 7月 喧嘩やトラブルも子供同士の関係づくりに 役立てる！ ……72

教室掲示① ……74  
教室掲示② ……76  
終業式① ……78  
プール指導 ……80

## 8月 夏休みにしかできないことに取り組もう！ ……82

研究会への参加 ……84  
2学期の授業準備 ……86  
始業式準備 ……88

## 9月 プラスとマイナスを意識して子供に接する ……90

始業式① ……92  
避難訓練（地震・津波） ……94  
運動会③ ……96  
運動会④ ……98

## 10月 行事では裏方に回って子供たちをサポート！ ……100

学級会② ……102  
修学旅行② ……104  
修学旅行③ ……106  
保護者会 ……108

## 11月 燃え尽き症候群にならないように普段の日も 特別な日にしよう！ ……110

文化祭・音楽祭 ……112  
6年生ミッション② ……114  
ランドセルの絵 ……116

## 12月 4月からのことを振り返ろう！ ……118

学級会③ ……120  
宿題指導 ……122  
大掃除 ……124

終業式② ……126  
最後の冬休みをどう過ごすのか ……128

## 1月

卒業というゴールに向かって  
油断せずに取り組む ……130

始業式② ……132  
始業式③ ……134  
学級会④ ……136  
児童会 ……138  
卒業アルバム ……140

## 2月

5年生への引き継ぎを意識する ……142

最後の授業参観① ……144  
最後の授業参観② ……146  
節分集会 ……148  
6年生ミッション③ ……150

## 3月

祝卒業!! 心の中で思ったことを  
そのまま子供たちに伝えよう! ……152

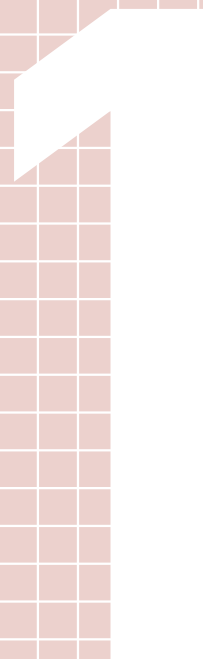
総合的な学習の時間発表会 ……154  
6年生を送る会 ……156  
卒業式① ……158  
卒業式② ……160  
卒業式③ ……162

執筆者一覧 ……164

第 6 学年における

学級経営の

ポイント



# 1 6年生の担任になったら

## 1 6年生のイメージ

みなさんは、「6年生」にどのようなイメージをもっていますか。

- ・最高学年としてみんなのお手本となる存在
- ・学校のリーダー
- ・様々なことを引っ張っていく存在

などの輝かしい姿をイメージしたかもしれません。

では、「5年生」にどのようなイメージをもっていますか。

- ・自分を確立し始める時期
- ・心や体が不安定になる時期
- ・高学年のスタート

といったイメージをもたれる方がいたのではないのでしょうか。また、6年生に比べると、イメージしづらい方もいらっしゃるのではないのでしょうか。イメージしづらかったことを責めているわけではありません。6年生や1年生はみんながイメージをもちやすい学年なのです。

「6年生」をイメージしたとき、決して「5年生」の三つのイメージをもたれる方はいないことでしょう。

つまり、何が言いたいのかといえば、

**最初の三つの輝かしい姿をイメージして、4月の学級経営を始めるのは危険**

ということです。学級経営がうまくいかない可能性があるということです。



## 2 うまくいかない理由

「最初の三つの輝かしい姿をイメージして、4月の学級経営を始めるのは危険」ということに驚いた方もいることでしょう。

なぜ、うまくいかないのでしょうか。なぜなら、4月上旬の6年生の子供たちは、1、2週間前には5年生だったからです。5年生から急には6年生にはなれません。私たちの中にも4月に急に「先生」になられた方が多いことでしょう。前日まで「学生」だったのに、たった1日で立場が変わりました。だからといって、先生としての力が急に身に付いたわけではありません。そのことと同じです。

人はすぐには変わることができないものです。もちろん、子供によっては、お手本となる行動ができる子、リーダーとして振る舞える子、引っ張っていくことができる子はいることでしょう。でも、全員ではありません。

だから、前述のような姿に子供たちがなるために、1年間かけて、

**日常生活、授業、そして行事を通して育成していく必要**

があります。ある意味、これまでの学年と同様のことをしていく必要があります。ただ、「最高学年」「学校の代表」「様々な場面で下級生を引っ張っていく場面がある」「あと1年間で卒業」という事実があります。だからこそ、これまで以上に1年間かけて日常生活、授業、そして行事を通して育成していく必要性があります。

子供たちは勝手には成長はしません。子供が成長していくための、

- ・教師の思い
- ・環境
- ・教師方のサポート

などが必要になります。

子供たちを育成していく中で、上記のような姿をどの子にも見ることができるような学級経営を計画していかないとはいけません。

6年生の子供たちが卒業するときに、

- ・最高学年としてみんなのお手本となる存在だった
- ・学校のリーダーだった
- ・様々なことを引っ張っていく存在だった

といったようなことを、

**まわりの大人が思うこと、子供たち自身も同様のことを思うこと**

が理想ではないのでしょうか。



# 2 ゴールイメージをもとう

## 1 1年後の学級・子供の様子をイメージしよう

私たちは、

**1年後のゴールである子供たちにどのような姿になってほしいのか**

ということをしっかり考えておく必要があります。

これがないと、ゴールがないまま学級がスタートすることになります。ゴールがないため、学級がさまよってしまうかもしれません。それだけは避けたいものです。

とはいっても、はじめて6年生を担当する方にはゴールがイメージしづらかったり、久しぶりに6年生を担当する方にとっては、自分のゴールイメージに自信がなかったりするかもしれません。だから、

**4月の1週目に子供たちと出会ってから考えてもよい**

のです。他にも、

**「1年後、みんなはどのような姿で卒業したいのか」と問いかけ、子供と先生も共に考える**

といったことも有効です。以前、「1年後の私へ」「1年後の学級へ」と手紙を書くという実践にも取り組んだこともあります。その取り組みでは、半年後に手紙を読むのですが、半年前に書いたことを半年後に達成できるのか、達成できなさそうであればどのような取り組みをすればよいのかを考えたこともあります。

この二つはより子供の実態に応じたゴールになります。理想は高くても構いません。しかし、事前に考えていたゴールでは、

**子供の実態とかけ離れているゴール**

になっている可能性があることを忘れてはいけません。もし、そのようになっているのであれば、途中で軌道修正をすればいいのです。

また、そのゴールイメージはどのような目的なのかということがないといけません。

例えば、痩せるというゴール目標があったとします。しかし、その痩せるというゴールは、ボクサーで試合のために減量する目的なのか、太ってきたため太った分痩せようという目的なのかといった目的まで考えたいものです。ボクサーで試合のために減量する目的と、太ってきたため太った分痩せようという目的だと、明らかにボクサーで試合のために減量する目的の方が切実感があります。つまり、

**目的によって、方向性や思いが違う**

ということです。だから、

**目的を明確にし、ゴールをイメージする**

ということが大切になってくるのです。目的が明確でないと、前述のように目の前の子供たちの実態とずれてしまう可能性があります。

## 2 抽象的なゴールイメージ

私はこれまで4回6年生の担任をしたことがありますが、

**1回目は、日本一の学級を目指そう**

**2回目は、みんな笑顔で卒業しよう**

**3回目は、悔いのない1年にしよう！**

**4回目は、コロナに負けるな、一人一人が満足した学校生活を送る**

ということを1年後のゴールにしていました。

私のゴールイメージを見て、案外、抽象的なゴールだなと思われたかもしれません。私はあえて抽象的にしています。抽象的にしておくことで、前述のように軌道修正をしたり、具体的な目標をいくつも考えたりすることができます。具体的な目標だと達成して終わり！ということになりますが、このように抽象的なゴールだと達成して終わり！ということにはなりません。

しかし、1回目の「日本一の学級を目指そう」というゴールは避けたいものです。とにかく、当時の私は日本一の学級ということに私自身がこだわっていました。自分本位のゴールでした。そう、目の前の子供たちとは関係がなかったのです。自分本位のゴールイメージは避けましょう。

# 4月 子供と保護者との関係を意図的に仕組んでいこう!

## 4月は形成期

各月の概論ページには、心理学者のブルース・W・タックマンが1965年に提唱した組織の成長の段階を示したモデルであるタックマンモデルを使い、各月がどの成長段階に当てはまるのかを提示していきます。

なお、各月がどの段階にあたるのかは一般的に考え、配置をしています。そのため、学級によっては違いが生まれることは想定しておいてください。また、明確には〇〇期だということも示しづらいです。どんな学級でも、4月のスタートから達成期の学級はありません。どの学級も平等に形成期からのスタートです。

形成期 (メンバーを形成)	混乱期 (考え方、感情がぶつかり合う)	規範期 (共通の目標、役割分担が形成され始める)	達成期 (学級として機能し、成果を出す)
<ul style="list-style-type: none"> <li>• お互いのことをよく知らない</li> <li>• 学級の共通の目標が明確には定まっていない</li> <li>• 子供たちの特徴や思い、考えなどが分かっていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子供たちの特徴や思い、考えに食い違いが起こり、人間関係などで対立が起こる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学級の子供たちの特徴や思い、考えなどが共有され始め、統一感が生まれつつある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学級に結束力が生まれ、相互にサポートができるようになる</li> <li>• 学級としてパフォーマンスを最も発揮する時期</li> </ul>
4・5月	6・7・(8)・9・10・11・12月		1・2・3月

## 意図的に仕組んでいこう

さあ、新しい学級のスタートです。4月は形成期なのは、みなさん納得することでしょう。新しい先生、新しい子供たちです。お互いのことをより知っていき、関係を作っていくことが大切です。

このときの関係は、先生と子供たちの縦の関係だけではありません。子供と子供の横の関係を作っていくことが大切です。特に、コロナの影響もあり、以前に比べると、子供と子供の横の関係が薄くなっているようにも感じます。

もちろん、保護者との関係を築き上げていくことも大切です。ただ、まずは保護者というよりも先生と子供との関係づくりからスタートしていきましょう。その縦の関係が築かれ始めると、きっとお家で先生の話や学校の話になるでしょう。勝手に縦の関係、横の関係が作られていくわけではありません。こちらの方が、**意図的に仕組んでいく**ことが求められます。そこで、4月のページで紹介されている行事や出来事を通して、縦の関係、横の関係を作っていきましょう。

## 4月で紹介する項目

この4月では、以下の行事や出来事について紹介をしていきます。

- 入学式
- 学級開き①②
- 学級目標①②
- 1年生を迎える会
- 挨拶指導
- 係・当番
- 委員会・クラブ
- 縦割り班活動
- 給食
- 参観授業
- 家庭訪問
- 個人面談



入学式を成功させるために、子供たち同士でできることを考えていく必要があります。つまりは、横の関係づくりに適しています。係・当番活動の指導も横の関係づくりに適していることでしょう。

そして、その行事や出来事が成功するように指導してだけでなく、なかなか成果としては表れづらいかもかもしれませんが、こういった関係を少しずつ作っているといったことを意識しておくだけで、指導も変わってくるでしょう。

関係を作るには時間がかかるものです。あきらめずに取り組んでいきましょう。





# 入学式

## ねらい

1年生にやさしく関わる自分の存在を見つめ、最高学年としての自覚を味わわせます。卒業式へのつながりを意識させて行事を成功させることで、自信をもたせましょう。

## 指導のポイント

入学式は、リーダーとして直接的にも間接的にも関わる事ができる、最初の行事です。子供たち一人ひとりの頑張る姿をたくさん見つけ、積極的に言葉をかけていきましょう。

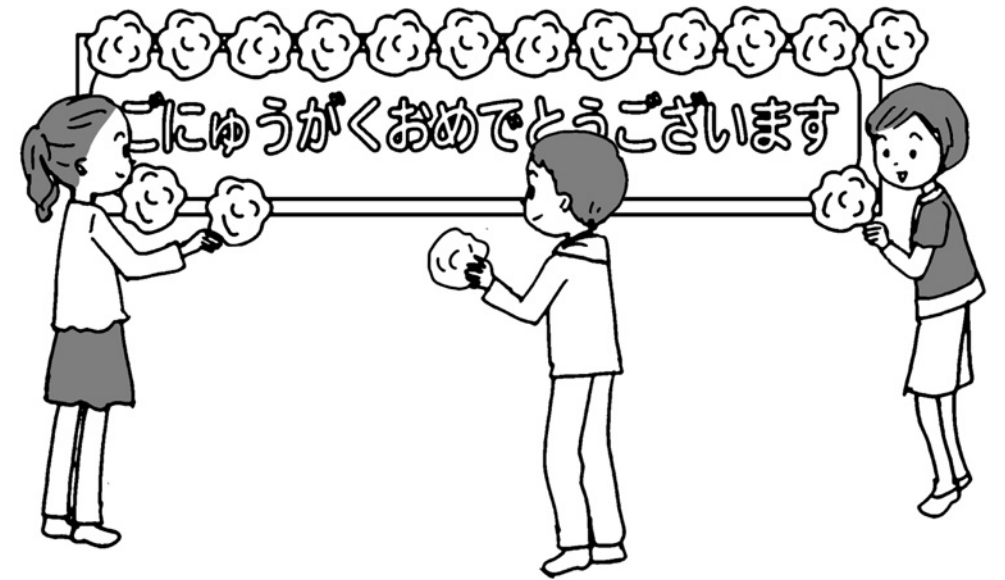
また、自分たちが入学した頃を思い出し、懐かしさや成長を感じる「心の現在地」も大切にしたいです。約1年後、同じ会場で卒業式が行われる学校が多いのではないのでしょうか。6年生みんな自信をもってその一歩を踏み出しましょう。



入学したときのことを思い出して素敵な入学式にしましょう！

6年生としての自覚を促したり、約1年後に訪れる卒業式を意識したりしながら言葉をかけていきます。1年生が安心して迎えられるような入学式にしましょう。

## 入学式の準備



メインの式場に掲げた看板に花を付けたり、垂れ幕を貼ったりします。「1年生に喜んでもらえるような入学式にしようね」と声をかけながら、最高学年としての自覚を促していきます。

会場の準備は、メインの式場以外に廊下や教室でもあります。一人ひとりに役割をもたせて、その頑張りを後に子供たちに伝えるようにしましょう。

## 展開

### 01

#### 入学式会場準備



準備はメインの式場だけではなく、1年生教室や通路、掲示板作成など、場所も内容も多岐にわたります。できるだけ子供たちの特性を生かして役割を配置し、「あなたに頼んでよかった」「気付くなんてすごい！」など、頑張りを伝える場面を多くもちたいですね。

### 02

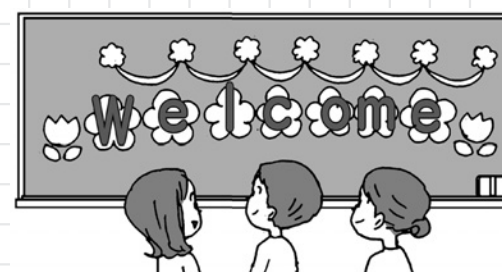
#### 在校生代表で入学式に参加



6年生が在校生代表として式に参加できる学校があります。手をつないで入場、座席案内、歓迎の言葉、校歌のプレゼント等、関われる場面を1年生担任の先生と打ち合えます。「おめでとう」が伝わる言葉や目線の高さ、表情、態度なども、事前に確認しておきましょう。

### 03

#### 入学式の前後に参加



入学式に参加しない場合でも、1年生と関わる場を意図的に作ることができます。例えば、トイレや会場までの付き添い、外で花道を作り、笑顔と拍手で迎え入れるなどです。「安心感のある学校は、私たち6年生が作っていく」という気持ちを感じさせましょう。

### 04

#### 後片付け・振り返り



子供たちが頑張る姿を写真に収め、一緒に振り返りをします。進級して間もなく、大きな仕事を終えた子供たちを褒めましょう。校長先生や1年生担任の先生からもねぎらいの言葉がいただけたら、子供たちの達成感や自己肯定感の高まりがさらに期待できます。

# 学級開き①

## ねらい

教師と子供との初めての出会いを大切にします。最高学年への憧れを高めながらも、最高学年に対するプレッシャーを感じさせすぎないようにしていきましょう。

## 指導のポイント

単発の6年担任は、子供たちが不安に思う可能性が高いです。「5年生の先生が持ち上がりだと思っていたのに」。そんなふうを感じる子供もいるでしょう。その不安を少しでも取り除けるように、自己開示を大切にします。正直、6年生の学級開きは、入学式の準備があるので、ほとんど時間が無いと思っていいです。少しでも子供の心をつかめるように、自己紹介のスライドなどを使って、自分らしさが溢れるものにできるといいですね。

## 自己紹介は「ちょっとした遊び要素を」

自己紹介となると、どうしても教師が一方向的に話す時間が増えてしまうはず。たとえ、6年生であっても、いきなり10分ほど話を聞くのはしんどいかもしれません。クイズや嘘あてゲームなどを取り入れて、緊張した雰囲気や子供の表情を和らげてあげましょう。



小学校の先生6年目  
先生の年れいは  
8さいと228か月です。

さあ、クイズです！  
先生は何さいでしょう？  
① 8さい ② 228さい  
③ 27さい

この中に1つだけうそがあります！

- ・旅行に行くこと
- ・写真をとること
- ・本を読むこと
- ・映画を見ること
- ・アニメ
- ・やさいを食べること
- ・スイッチをすること
- ・テニスをすること
- ・植物を育てること



好きではない  
ものはどれし  
ょう？

## 印象に残る自己紹介を！



初めての出会いを大切にするためにも、自己紹介は子供たちの印象に残る話を。スライドを使って、自分の趣味の写真や楽しかった・失敗したエピソードを紹介するといいですね。

## 展開

### 01 自己紹介



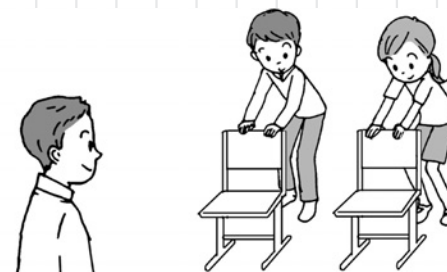
スライドなどを用意して、まずは自己紹介をします。「この先生は誰？」と知らないからこそその不安感もっている子供もいると思います。まずは自分のことを知ってもらいましょう。過去の失敗談やここだけの秘密などを入れると、心の距離が縮まるかもしれません。

### 02 子供の名前を呼ぶ



呼名は、教師と子供が一对一で初めて関わる一大イベントです。そこで、呼名するだけでなく、プラス1の声かけをします。素敵な名前だと伝えてもいいですし、返事のよさにリアクションしてもいいでしょう。少しでも子供の表情が和らげば理想的です。

### 03 入学式の準備をする



入学式の準備は子供の実態を見ることのできる大きなチャンスです。課題を把握しながらも、子供のよさをたくさん見つけるようにします。準備を終えた後、教室でこのクラスの頑張りを伝えます。6年生としての初めての活動を大きくたたえましょう。

### 04 配布物を配る



始業式の日、大量に配るプリントがあります。学年通信や保健関係の書類、家庭調査票など、絶対にその日に配らないといけないプリントがあります。配り忘れは保護者との最初のミスマッチになってしまうので、最善の注意を払いましょう。



# 学級開き ②

## ねらい

小学校生活最後の一年は、子供たちにとって先生にとっても特別です。互いの理想とする姿や願いを共有し、一体となって卒業を目指す思いを大切に、心地よいスタートを切りましょう。

## 指導のポイント

5年生からの学級をそのまま持ち上がった場合は、関係が築けている分、和やかにゆったりとスタートできることでしょう。「またあなたたちと暮らせることがうれしい」「今日から卒業までのカウントダウンが始まるのが寂しい」など、思いを伝えます。その上で「6年生として今までよりもレベルアップを期待していること」や「一人ひとりのアクションが最高の学校を作ること」を意識させたいです。

## 思春期、こんなときは要注意！

クラス替えで子供たちの一部のみが変わった場合、5年生から持ち上がりのクラスの子供たちと比べ、多少の温度差や距離感を抱きながら教師に関わり始めます。その不安や劣等感を受け止め、できるだけ早く個々と会話し、安心できる関係づくりに努めましょう。

また、逆も同様で「担当は先生がよかったな」と思う、他クラスになった子供がいるかもしれません。新しい担任の先生に子供たちの情報をたくさん伝え、大人も子供も、早く環境の変化に適応できるよう意識しましょう。

さらに、担任が同性なのか異性なのかで関係づくりに敏感になる子供もいます。そのため、6年生の先生方は、「学級」というよりは「学年」を意識し、指導していく必要があります。先生たちが、「学級」の垣根を越え、関係なくサポートしていくことを子供たちに伝えることで、「学級の居場所」も安心して見つけられるように整えていきたいです。

## 展開

### 01 学年でビジョンを共有しよう

上記の理由から、「学年」でスタートできることが望ましいです。6年生の先生たちの人柄が知れ、卒業までのビジョンも全員で共有できる安心感があります。

時間や場所の関係で学年の場がとれないときは、事前に学年の先生方で話し合い、学年経営の指針を明確にしておきましょう。その点を踏まえ、自己紹介や教師の願い等を学級開きで伝えます（その一例は前ページの「学級開き①」をご覧ください）。そのときに、教師側の「6年生はこうである」というような勝手なラベリングをしてはいけません。子供たち一人ひとりにも「理想の6年生像」や「こんな一年を過ごしたい」という願いがあるはず。子供たちの言葉から思いが紡がれるよう、しかけましょう。

### 02 主体的になれるしかけをしよう

多くの学校では初日に入學式準備や教科書配布などが行われ、ゆっくり時間が取れないでしょう。初日は出会いの場を大切に、「明日も学校に行きたい」と思って、さようならできることが理想的です。2日目以降にどんどんしかけていきましょう。

#### 【しかけ案】

- ① 桜の木や校門前で集合写真を撮る。
- ② 初日から卒業まで、写真を撮りためておく。
- ③ 学年でテーマにしたい言葉を募集し、学年通信や掲示板、自学コーナーの名前にする。
- ④ 「卒業式を迎えた自分へ」手紙を書き、1の集合写真も封筒に入れ、卒業式前日まで保管する。
- ⑤ 年間行事予定を掲示し、見直しをもたせる。

[しかけ案③の例]

募集!

# 新6年生で大切にしたい キーワードやテーマ!!

進級おめでとうございます。いよいよ最上級生!

●●小で過ごす最後の1年をどのようにしていきたいですか? 1日1日を大切にできるように、「6年生のテーマ」をみなさんから募集します。その集まった案の中から、学年だよりのタイトルや、クラス会議名などを決めていく予定です!!

友だちやおうちの方と考えるのもOK!

好きな曲や本からヒントをもらう案は、いくつ出してもOK!!!

\*しめきり → 4/15(月)

\*提出先 → 各クラスの担任



# 係・当番

## ねらい

「学級」という小さな集団を、自分たちの力で楽しく充実した大切な居場所にする経験を通して、最高学年として「学校」という大きな集団を動かす意識とスキルを身に付けます。

## 指導のポイント

当番や係活動は、多くの学校で1年生から行っているため、6年生は経験を伴ったイメージがもてるようになってきています。そのため、教師主導ではなく、子供たち自身の知識と経験を生かし、活動していくことが望ましいです。学級会等の導入も併せて行い、子供たちが主体的に話し合い、決定すると効果的です。子供たちの個性が生かされるよう助言や見守りをし、活動をサポートしましょう。

## 当番や係活動の例

**当番** (あると暮らしがスムーズになるもの)  
日直・給食・清掃・黒板・窓・電気・整頓  
配膳台・保健・教科連絡・掃除・配布等

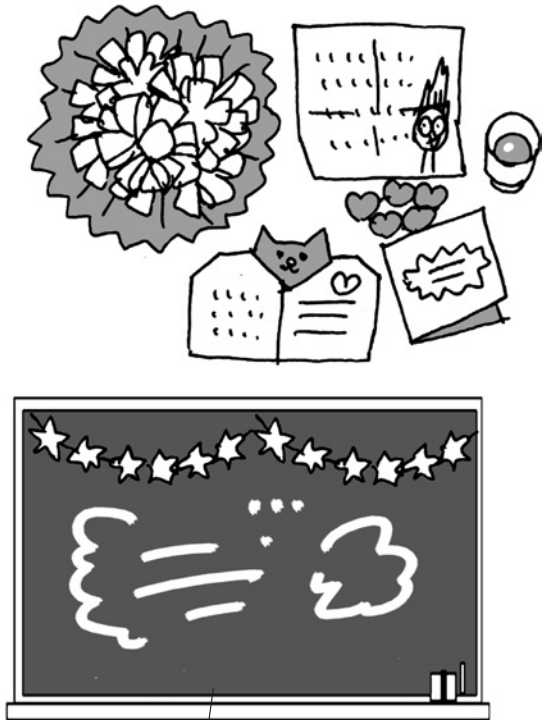
**係活動** (あると暮らしがより豊かになるもの)  
お祝い・お笑い・ほめほめ・スポーツ・占い  
レク・キレイ・ギネス・飾りつけ・思い出  
怖い話・くじ引き・天気予報・新聞・ニュース  
生き物・図書・音楽・ダンス・折り紙・応援  
ボランティア・タブレット・アーティスト・  
かんぱい・クイズ・調べ等



## 個性が生きる係活動



みんなを楽しませる係(会社)活動。子供たち自ら考えた企画がクラスを成長させます。



お祝い係。手紙(上)や黒板(下)、ノート等で誕生日を祝います。

## 展開

### 01 経験をもとに意見を出し合う



クラス替えがある場合、前年度の各クラスによってシステムが違うことが予想されます。教師側でアイデアはもちつつも、子供たちから情報を集め、主体的な意見を尊重します。子供たちの活躍や個性が光りそよなものは引き続き取り入れましょう。

### 02 当番活動の実施と見直し



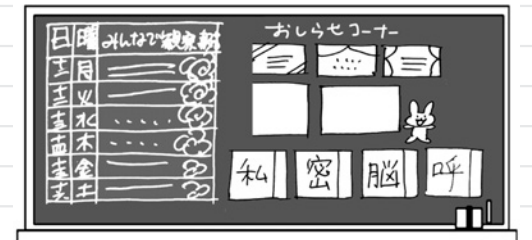
「当番」は学級にあると、暮らしがスムーズになるものを設定します。担当は一人一役や少人数等にし、個々が責任もって取り組めるようにします。2~3週間程度活動し、仕事量や人数など課題が見えてきたら、その都度話し合いを設け、修正を提案しましょう。

### 03 係活動の実施と見直し



「係活動(会社活動)」は、人数や性別にこだわらず、子供たちの希望を優先し、活動できるようにします。係活動での自由な企画、運営が自信となり、学校での活躍につながっていくことが期待できます。適宜、活動内容の見直しも行いましょう。

### 04 つながる環境づくり



係活動の情報スペースを確保し、盛り上げを後押ししましょう。また、係同士のコラボを促したり、行事と係活動の内容を関連させたりする工夫は後に委員会活動などにも生かされます。子供たちの企画には、教師も参加し、一緒に楽しむことも大切かもしれません。



# 修学旅行①

## ねらい

日常とは違った環境の中で活動することを通して、楽しい思い出を作らせるとともに、よりよい人間関係を築かせる機会にしましょう。

## 指導のポイント

学級の雰囲気や人間関係に、直接的に大きな影響を及ぼす行事の一つが修学旅行です。

だからこそ、学年団での入念な打ち合わせが大切になります。

また、子供たちの中に、「修学旅行を成功させよう」というような投げかけをしておく、修学旅行について、それぞれができることを考えるきっかけになります。

## 楽しい思い出にするために①

修学旅行が終わった後の姿をしっかりとイメージし、子供たちにそれを具体的に伝えておくのも、楽しい修学旅行にするための一つの手立てです。

- ・学級の仲間の新たな一面
- ・自分自身の新たな一面

このようなことも発見できるように促しておくともよいでしょう。

仲間との関わりが変わったり、自己認識が変わったりすることもあるということを伝えておくのもよいでしょう。

## 楽しい思い出にするために②

行き先については、あらかじめインターネットなどから得た情報や写真を子供たちに見せておくと、子供たちは具体的にイメージすることができます。

そうした活動を通して、旅行中の活動などを具体的に計画させるとよいでしょう。

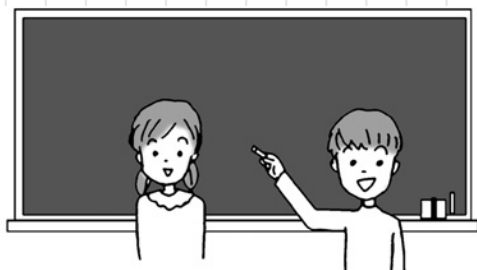
## いざ、修学旅行！

修学旅行が終わったら、どんなふうになってるかな？

	学級の雰囲気	自分	学級の仲間とのかかわり
理想	<b>【記入例】</b> ・いろいろなことをみんなで解決していけるクラス ・みんなが笑顔でいるクラス ・目標に向かってがんばるクラス	<b>【記入例】</b> ・すばやく行動にうつすことができる自分 ・責任感のある自分 ・前向きにがんばれる自分	<b>【記入例】</b> ・困っている子を見逃さない ・いろいろな子と関われるようになりたい ・〇〇さんともっと仲良くなる
方法	・旅行中の困ったことも相談し合う ・楽しいクイズを考えておく ・めあてをみんなに伝える	・5分前には、次の行動にとりかかる ・グループのリーダーとして、メンバーとの話し合いをまとめる ・それぞれの活動にめあてをもっておく	・グループで活動するときには、体調などの話もしてみる ・できるだけ、たくさんの人に話しかける ・〇〇さんと、好きなアニメの話題をしてみる

## 展開

### 01 学級で話し合う



学級で、どんな修学旅行にしたいかを話し合います。ルールやマナー、役割などについて話し合いながら、学級での共通目標を作っていきます。決まった内容は、しおりに書き込ませるのもよいでしょう。

### 02 自分を見つめる



右ページ上にあるようなワークシートをタブレットなどで子供たちに配布し、記入させます。特に、よりよい人間関係を築いたり、よりよい学級の雰囲気を作ったりしていくことを意識させたいです。

### 03 修学旅行当日



子供たちにとって充実した修学旅行になるよう、健康面や安全面には、心配りをすることが大切です。なかには、不安を感じている子もいますので、その子への配慮も忘れないようにしましょう。

### 04 修学旅行後



写真などを通して、思い出を振り返る時間を取ると、集団としてのまとまりが高まりやすいです。また、「キャリア・パスポート」などに、修学旅行を通して学んだことや自己への気づきなどを記入させるのもよいです。

# 修学旅行③

## ねらい

修学旅行は6年生にだけ与えられる特別なイベントです。楽しい思い出をみんなで共有するとともに、さらなる集団力アップにつながるように指導しましょう。

## 指導のポイント

4月から頑張ってきた6年生。この時期になると友人関係も把握でき、集団としての課題も見えてくることでしょう。卒業まで残り半年です。この修学旅行をきっかけに仲を深め、大切な思い出を作ってもらいたいところです。修学旅行では、今までの遠足や宿泊学習のときよりも、子供たちが主体的に計画をし、実行できる力が求められます。集団の一員として役立つ喜びが得られるようにサポートしていくことが大切です。

## 事前指導・準備チェックリスト(案)

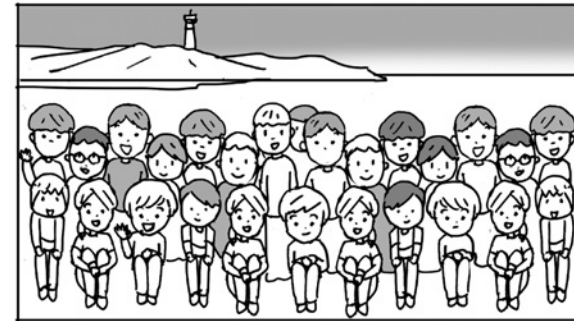
### ①教員がすること(旅行会社への依頼あり)

- 見学先・宿泊施設の決定
- 全体活動場面の決定
- グループ活動場面の決定
- 目的・行程表・持ち物・予算案等の作成
- 引率者役割分担
- 保護者説明会資料作成
- しおり作成(全体共通)

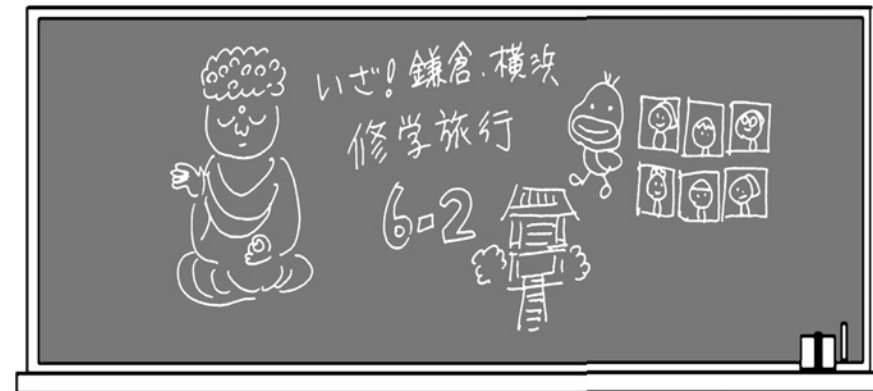
### ②子供たちと一緒にすること

- 修学旅行の目的等の共有
- 修学旅行実行委員会の立ち上げ
- グループ活動メンバー決定・役割分担
- 宿泊部屋メンバー決定・役割分担
- 調べ学習・まとめ
- グループ活動計画案作成・修正
- しおり作成(グループ活動や表紙など)
- 集合写真の隊形確認と練習
- しおりのとじこみ
- しおり読み合わせ

## 6年生にとって特別なイベントを楽しもう!



卒業まで残り半年。思い出に残る修学旅行にするために集合写真や、グループ写真もたくさん撮りましょう。



修学旅行前日には黒板にイラストを描いたり、メッセージを書いた手紙を貼ったりすると、より気持ちが高まります。

## 展開

### 01

#### 保護者会で提案しよう



保護者説明会を開き、行事のねらいや行程案、予算案などを伝えましょう。また、子供たちにお小遣いをもたせる学校は多いですが、金額は学校だけでは決定しにくいところがあります。安全面も含めて検討し学校と保護者で決定していくことが望ましいです。

### 02

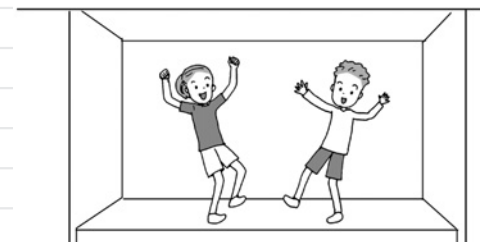
#### 子供主体のグループ活動ができる場面を設定しよう



子供主体で活動する場面を設定します。その際の活動形態やメンバーの組み方、役割等は子供の実態とねらいに合わせて考えます。教師側で提案するところと、子供たち任せるところの見極めが大切です。大人が一方的に与える計画にならないようにしましょう。

### 03

#### 「自分たちらしい」旅行にしよう



実行委員を中心に楽しい修学旅行になるように話し合い、計画を立てましょう。例えば、しおりの表紙や挿絵は子供たちが描いたイラストなどを入れたり、夜のお食事会では出し物などを企画したりします。みんなで楽しいひとときが過ごせる工夫を意識させたいです。

### 04

#### 笑顔の写真をたくさん撮めよう



卒業文集に修学旅行について書く子供は多く、それほど大切な思い出になるようです。集合写真やグループ写真などは計画的に撮り、子供たちの笑顔をたくさん撮りましょう。街中での集合写真は素早く終わらせるよう隊形の確認や練習もしておくといいですね。